

# 柏崎刈羽原発の再稼働の是非を県民に問う県民投票条例の制定を 直接請求署名成功へ受任者集会

柏崎刈羽原発の再稼働を目指す動きが活発化してきています。こうしたなか、柏崎刈羽原発再稼働の是非を県民に問う県民投票条例の制定を求める直接請求署名の上越市での受任者集会が11月30日、市民プラザにおいて行われました。

最初に、事務局の片岡豊市民連合・上越の代表からこれまでの取組状況、全県の動きについて報告がありました。上越市ではすでに直接請求に必要な筆数を突破し、3400筆を越えているものの、全県的にはまだまだという状況であること、上越市でも、目標としている1万7000筆到達にはもっと力を集中して取り組む必要があるとのことでした。

その後、受任者を代表して、村田秀夫さん、前山忠さん、古川和代さんなど5人がこの間の自らの活動について経験を語りました。このうち、前山さんは三和区で活発に戸別訪問をし、これまで

に350筆を集めたことを語りました。また古川さんは受任者を50人増やしたこと、この受任者の力をかりて500筆をめざしているとのべ、注目されました。5人の活動報告を聴き、残りの期間（28日まで）、全力で頑張らなければ

ならないと思いました。

集会後は市民プラザ前の大通りで、通行車両に県民投票条例制定を実現しようとアピール（イラスト）しました。原発再稼働に賛成の人も反対の人も「是非を県民に問え」と署名をお願いします。



寒い風が吹く中、田んぼでくつろぐコウノトリ夫婦。撮影は3日、吉川区竹直にて。

## 12月議会一般質問に25人

上越市の12月定例議会が4日から始まりました。初日は市長による提案理由の説明後、日本共産党議員団の平良木市議など2議員が、「旧上越観光物産センターの譲渡先の決定に至る経緯」「旧シニアセンター本町ふれあい館の無償譲渡」などをめぐって質問を繰り返しました。次号で続報します。

11日から始まる一般質問には25議員が発言通告書を提出しました。市長の辞職勧告決議に賛成した経過もありますが、市民生活に関わる課題がある以上、行政への働きかけは必要です。私は16日の午後、原子力災害避難などで質問します。



【コダチダリア】（再掲）キク科の多年草。「皇帝ダリア」「キダチダリア」とも呼ばれています。草丈は2、3メートルにもなり、冬を前にしてピンクの花を咲かせる姿はまさに「皇帝」です。花言葉は「乙女の真心」。写真は11月25日、吉川区大乘寺の関沢武さん撮影です。



はしづめ法一の  
活動レポート

**No.2183 2024.12.8**  
発行編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず  
Tel 025-548-3628  
通じないときは 090-5392-1961  
E-mail hasiznyg\_0808@yahoo.co.jp  
URL <https://www.hose1.jp/>



ブログ  
「ホーセの見  
てある記」は  
← こちら

橋爪法一 検索



# 春よ来い

## 第八三〇回 かちやの歌

四か月ぶりのくらいでしようか、キエさんに会ったのは……。

先日の夕方の五時近くになって、高田から岩木のキエさん宅をめざしました。あらかじめ電話をかけたのですが、通じません。「駄目で元元」と思い自宅まで行ったところ、娘さん夫婦が家の外で仕事をされています。キエさんは留守かと思ったのですが、娘さんからは「いるすけ、入ってください」と言われました。

娘さんに案内してもらい、キエさんの部屋に入ると、キエさんはベッドの上に座っていました。私の顔を見るなり、「きょうあたり、電話しようと思っていたけど……」と言われました。じつは、前回会ってから二度ほどキエさん宅を訪ねたのですが、ディサービスなどで留守だったのです。それだけに私との再会が待ち遠しかったのかも知れません。

最初に試作段階の『かちやの歌』をスマホで聴いてもらいました。この歌は私が吉川の山間部、蛭場に住んでいたころのことから現在の代石に移り住むようになってからの数十年の母の姿をイメージして作り上げた歌です。私と「ミニミニディバンド・ピアス」のボーカルのマコさんと共同で作詞したものにマコさんが曲をつけてくれました。

♪かーちやー帰って来ない かちや暗くなってきた かちや みんな 腹へった  
歌声が流れ出てくるスマホをじっと見ていたキエさんは、一番から三番に入るあたりでベッドのわきにあつたハンカチを取り、歌が終わるまでずっと顔をおおっていました。

歌が終わるとゆっくりのハンカチを外し、「ごめんね、昔を思い出した。おまんたエツさんが『のうの』にいやった時分のこと、思い出して……」と私に言いました。「のうの」は旧大島村竹平にあった母の実

家の屋号です。キエさんは、「のうの」のすぐ下にあった「あたしや」（屋号）で生まれ育った人です。

♪みんなかちやが好きだった  
かちやから生まれていかったよ

キエさんは私が生まれて間もない時のことをまた思い出してくれました。一九五〇年（昭和二十五年）の春のことです。私が「のうの」の家で生まれたものの、母の乳が充分出なくて、私よりもひと月前にお産をしたキエさんは私に乳を飲ませてくれたのです。キエさんは、「あんどき、きよもん（着物）がびしょびしょになるほど乳が出ていた。飲んでもらって助かった」と言いました。

♪かちや 帰って来ない  
かちや 笹採りおつかれさん

キエさんは、自分の結婚後の暮らしも思い出しました。「おれ、一七のときからほしいと言われた。結婚したのは一九のときだ。小説になるほどいろんなことあった。ご飯の時は、自分で「しゃもじ」持たんねかったもんだ」。当時は食料不足で厳しい食生活が強いられ、嫁が大事にされない封建的な面も強く残っている時代でした。

『かちやの歌』は子ども頃のことを思い出させてくれるようです。キエさんは子ども頃、同級生だった「のうの」の義孝叔父さん（故人）とナスをもいだ時のことを語ってくれました。ナスは手で取ると茎に傷をつけてしまい、ナスのなりが悪くなることがあると親たちから注意されたことを思い出したといっています。

まだ試作段階の『かちやの歌』。じつは今月二日（土）一四時、吉川コミプラで開催の「ほっとコンサート」で「ピアス」の皆さんが「コウノトリさん、ありがとね」などと一緒に歌ってくださるそうです。大勢の聴衆を前にどんな演奏になるのか、いまからワクワクしています。

## 「越後奥三面一山に生かされた日々」を鑑賞

話題のドキュメンタリー映画「越後奥三面一山に生かされた日々」を観てきました。  
新潟県の北部、朝日連峰の奥深く

にある奥三面（おくみおもて）のダムに沈む前の地区の人々の暮らしをカメラが記録していました。  
春は家族総出でゼンマイ採り、学校は10日間の「ゼンマイ採り休み」になっていた。耕運機での稲作、焼き畑農業、狩猟などでの労働と伝統を重んじた生活は丁寧で、人間らしさに満ちていました。人間、どう生きべきかを考えさせられた映画でした。イラストはゼンマイ採り小屋での親子の食事風景です。



## 上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。  
消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	11月27日(水)	12月4日(水)
上越消防署	0.053	0.050
上越南消防署	0.050	0.050
新井消防署	0.050	0.050
頸北消防署	0.053	0.050
頸南消防署	0.067	0.060
東頸消防署	0.050	0.057
名立分遣所	0.060	0.070
高士分遣所	0.057	0.050

## 「青いランプ」の朗読と創作フラメンコに感動

今年の小川未明フェスティバルでとり上げた作品は「青いランプ」。未明の孫、小川英晴さんによる「青いランプ」の朗読と「ARTE Y SOLERA 鍵田真由美・佐藤浩希フラメンコ舞踊団」の皆さんの創作フラメンコの見事な共演に酔いました。

